

## 2025 秋 応用情報技術者試験 全国統一公開模試 講評と採点基準

2025 年 9 月 25 日 (株)アイテック IT 人材教育研究部

## ■ 全体講評

今回の公開模試 AP 午後は、受験者全体の出来栄を見る限り、問題の難易度は例年と比べてやや高かったと見受けられます。今回の模試を力試しの良い機会と位置付けて、成績が芳しくなかったとしても点数にとらわれることなく、できなかったところを復習して理解を深めましょう。

AP 午後試験は、記述式の問題形式でテクノロジー系、ストラテジ系、マネジメント系、組込みシステム系の問題で構成される全 11 問のうち、5 問を選択し、解答する形式です。問 1 のセキュリティ分野の問題は必須ですので、残りの 10 問から 4 問を選択することになります。まず、この選択をいかに的確に行うかが突破には重要です。試験では自分が選択した問題番号を○印で採点者に示します。今回の模試では少なかったですが、自分が選択した問題に○を付け忘れている人、自分が解答した問題とは異なる箇所に○を付けている人、問題番号の横の得点記入欄に○を付けている人が毎回散見されます。このような解答要領違反は、解答の良し悪しの前に採点されないため、指示に従って確実に問題を選択し、記入してください。また、試験の途中で選択を変更した場合も、忘れずに変更を反映させるように留意してください。

AP 午後試験では、問題の分野が多岐にわたります。解答に際しては時間配分に注意が必要です。併せて、どの問題を選択するかは十分に対策を考えておかなければなりません。自分自身が普段従事している業務の特性や経験などから、アルゴリズムやデータベースを得意としている人がいます。また、ストラテジ系やマネジメント系を得意とする人もいます。選択する問題の分野を広く考えておいて、試験本番に問題を見てから選択する問題を絞り込むことも、戦略として有効です。実際、五つの問題に解答しておき、出来の良かった四つの問題を後で選択するような受験者も見受けられます。どの問題を選択するかが合否に大きく影響しますので、よく考えて問題選択を行うようにしましょう。そして、選ぶべき問題の分野はしっかりと学習するようにしましょう。特に知識の有無が問われる問題では、前提となる十分な知識量が頭に入っていないければ、合格水準の得点を得ることは難しくなるでしょう。問題を選択する際、前に述べた選択問題の○の付け忘れや修正漏れが起こりやすいので、注意が必要です。

解答方法の全体的な注意点として、問題文や設問文をよく読むことが挙げられます。解答のヒントや解答が文中に書いてあることがありますし、解答表現の方向性を

示していることも多いので、それらの情報をしっかりと読み取り、設問意図を無視した独りよがりの解答をしないよう十分な注意が必要です。また、「問われている内容に答えられていない」記述をしないよう注意しましょう。例として「理由」を問われているのに問題点を解答したり、解決策を説明したりしているような記述解答が少なからず見られます。また、自らの業務経験に引っ張られて設問要求にできていない、逆に応用情報技術者にそぐわない表現（例えば、漢字で書くべきところをひらがなで解答する）を用いないことも大切です。

IT のバックグラウンドをもたない方の受験も増えており、ストラテジ系・マネジメント系の問題を選択する傾向が高まっています。これらの系統の問題では、問題文の文脈に沿って解答根拠を把握した上で解答しなければならない傾向が強く、解答表現には細心の注意が必要です。テクノロジー系の問題ではキーワードをしっかりと押さえることが重要になります。なお、今回の模試でも誤字や脱字が多く見られました。本試験では誤記は減点とはならない可能性もあり、例えば漢字が分からない場合にひらがなで解答することはテクニックの一つになり得ます。しかしながら、正しい漢字、カタカナ、英語（綴り）で書けるように、知識のインプットとアウトプットの両方を意識して学習しましょう。

解答用紙への記入に当たっては、濃くはっきりとした字を心掛けましょう。乱雑に書きなぐったような字は採点者の印象が悪くなる可能性がありますし、正答であっても誤字と認識され減点される可能性もあります。例として記号や数字での解答に「ウ」と「ク」と「ケ」や、「1」と「7」など判断が付きにくい答案が毎回散見されます。また、ボールペンを用いた答案がありましたが、試験ではボールペンの使用は認められないため、普段から鉛筆やシャープペンシルでの記述に慣れておきましょう。

公開模試の点数が良かった方は、今の学習をそのまま続けてください。思ったように点数が取れなかった方は、復習をすることで本試験でのスコアアップが期待できます。今回の結果を糧とし、本試験までの残された日々を粘り強く、「絶対に合格する」という強い意志をもって進んでください。本番で自分の力を最大限発揮できることを期待しております。

## <午後>

### 問1 電子メールのセキュリティ対策

#### 【採点基準】

##### 【設問1】

(2) 解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対し2点。

(5) 解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対し3点。

##### 【設問2】

(4) 解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対し3点。

その他は解答例どおり。

#### 【講評】

フィッシング攻撃など、メールを悪用する脅威が昨今ますます高まっています。送信元ドメイン認証技術の普及が進み、2010年代からDMARCの導入も進められてきています。本問はセキュリティに関する用語やSPFの仕組みについての理解を問う設問でした。

〔設問1〕(1)の解答「BEC」に対する正答率は低かった印象です。午前問題対策としても、この機会に覚えてしまいましょう。(2)は「ドメイン」との解答が散見されましたが、不正解としました。IPアドレスは、ネットワーク上で機器を識別するための数値の住所である一方、ドメイン名は、人間が覚えやすいように付けられた文字列の名前で、役割が違うためです。これは(5)においても同様の扱いとしました。

〔設問2〕(2)は高い正答率でしたが、「メールが本人から送信されたこと」という主旨の解答が散見されました。本問ではメールの内容の完全性についての解答を正解とし、送信者が本人であることの確認、なりすましについての解答は原則として不正解としました。

### 問2 製造・販売業の情報システム戦略の策定

#### 【採点基準】

##### 【設問2】

(1) 解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対し3点。ただし「資材調達の遅延」や「製品製造が停止」という記述が抜けている解答は減点している場合があります。

(3) 解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対し3点。ただし「手作業」についての解答は不正解としました。一方、「担当者により異なる」、「担当者間での一貫性がない」旨の解答も正解としています。

##### 【設問4】

解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対し4点。

その他は解答例どおり。

#### 【講評】

業務用厨房機器の製造・販売業における情報システム戦略策定をテーマとした出題でした。問2においては、問題文の中からヒントを探し出せるかがカギとなります。解法の一つとして、まず設問を一読してから問題文に当たると設問に紐付く部分を見つけやすくなることがあります。また、文中に登場する「サプライチェーン」=物や情報が流れる川上から川下までの経路全体、「ESG」、あるいは「サステナビリティ」といった語句は企業経営において頻出の語句ですので、午前問題対策としても理解が必要です。

〔設問2〕(1)は事業リスクのうち、「サプライチェーンに起因する」ものについて解答が求められます。この点を踏まえていない解答が見られました。設問をよく読んで解答しましょう。また、製品製造が停止する前段階の資材調達の遅延についての解答は部分点としました。(2)の解答のうち、「購買システム」を「購売」と記載した答案が非常に多く、これは不正解としました。(3)において、設問に「人的な問題点」とあるので、解答は人の数か人の質の問題のいずれかと絞り込めます。本文から該当箇所を探し出して吟味することで、正解にたどり着くことは難しくなかったと思われます。

〔設問3〕(1)は高い正答率でした。一方で(2)は正答率が極めて低かったため、広めに部分点を付与しています。本文中にあるサプライチェーンの観点から問題点とみられる内容を抜き出せるかがポイントでした。

〔設問4〕もおおむねよく書けていました。資材供給体制の安定性や複線化などについての解答は広く正解としています。

### 問3 文字列を圧縮するアルゴリズム

#### 【採点基準】

原則として解答例どおり。

#### 【講評】

データを圧縮するアルゴリズムの一つであるランレングス法に関して、表現形式の異なるプログラムを比較検討する出題でした。各設問を通じて二つの圧縮アルゴリズムの違いを理解し、圧縮の効果について考察することが求められました。解説に記載された二つの圧縮プログラムの共通点を把握した上で、間違えた箇所があれば復習に取り組んでみてください。

〔設問2〕ではアルファベット16文字の記述が必要でした。答えにたどり着いていたにもかかわらず、x, y, zの数を誤っていたもったいない答案があったので、集

中力を切らず、慎重に解答しましょう。

〔設問 4〕は正答率が高めでしたが、(カ)については「i - count」との解答が多く、他と比較して正答率が低めでした。

〔設問 5〕(2)〔圧縮方法その 2〕における繰返しの出現状況を考察する出題でした。記述式解答ですが配点が小さいことから部分点をなくし、理由を過不足なく説明した解答を正解としました。

#### 問4 システム統合の方式設計

##### 【採点基準】

##### 〔設問2〕

(2) 解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対し 4 点。

##### 〔設問3〕

解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対し 4 点。

##### 〔設問4〕

解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対し 4 点。

その他は解答例どおり。

##### 【講評】

会社合併に伴うシステム統合の方式設計を問うシステムアーキテクチャに関する出題でした。問題文の記述から答えを導き出すオーソドックスな形式ですが、設問 4 では SaaS の特徴に関する知識が求められました。

記述式の解答に当たり「～の観点から」と条件が付いている場合、問題文の該当箇所の絞り込みや解答作成のヒントになるため、必ず参考にするようにしてください。

〔設問 2〕(2)では設問文にあるように「開発の観点」からの「メリット」についての解答が求められるため、開発の観点が含まれていない解答は不正解としている場合があります。

〔設問 3〕では、「機能が存在しているシステム」の観点が盛り込まれていない解答は不正解としている場合があります。

〔設問 4〕では、「システム構成の違い」の観点が含まれていない解答は不正解としている場合があります。

〔設問 1〕の正答率は総じて高く、〔設問 2〕(2)以降の配点の高い記述式問題の出来具合が得点を分けました。これらの解答については様々な記述があり、幅広く部分点を与えています。

#### 問5 宿泊施設向けネットワークの構築

##### 【採点基準】

##### 〔設問1〕

考慮すべき点：解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対し 2 点。冗長化や信頼性などトラブルに備える旨の記載も正解としたり、部分点を付与したりしている場合がある。

##### 〔設問3〕

(1)解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対し 5 点。

##### 〔設問4〕

利点：解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対し 5 点。

その他は解答例どおり。

##### 【講評】

宿泊施設向けネットワークの構築をテーマとし、要件に沿ったシステム構築とそのコスト抑制についての出題でした。

〔設問 1〕「考慮すべき点」については、インターネットプロバイダを分けることが冗長化に必要な点である旨を多くの受験者が指摘できていました。一方で機能名の「マルチホーミング」については「リンクアグリゲーション」や「VRRP」との解答が少なくなく、正答率は低かったです。

〔設問 3〕(1)は配点が大きいため、幅広く部分点を与えています。設問にある「注意すべき点」として、屋外利用が禁止されていないこと、あるいは、使用周波数帯についての記述があれば部分点を与えています。

〔設問 4〕の「利点」についても、配点が大きいため幅広く部分点を与えています。障害発生時についての記述、他の回線によって冗長化する点、通信を継続できる点、についての記載があれば部分点を与えています。

#### 問6 航空会社のオンライン予約システムの刷新

##### 【採点基準】

##### 〔設問3〕

(3) 解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対し 3 点。

その他は解答例どおり。

##### 【講評】

航空会社のオンライン予約システムの刷新をテーマとした出題でした。問 6 では E-R 図に関する出題可能性があり、設問の中に「凡例に倣うこと」と指示される場合があります。設問 1 では E-R 図の完成が求められているため、「1 対多」といった語句での解答は誤りとしています。例年、設問 1 のような出題形式に対して語句での解答が散見されるため、形式に慣れるとともに、本試験でも設問文をしっかりと読んで求められる記載内容



を把握してから解答に臨む必要があります。

全体として満点に近い答案も点数が非常に低い答案も少なく、受験者のばらつきが小さかった印象があります。

〔設問 3〕(3) 多くの受験者が正答できていました。

「応答時間に着目して」とあることから、待ち時間の削減や応答性の向上についての記述がある解答は幅広く正答としています。ただし、「複数ユーザーによる同時予約」という条件部分が記載されていない解答は減点としている場合があります。

## 問7 手話 AI エージェント

### 【採点基準】

#### 〔設問1〕

(2) 解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対し3点。

#### 〔設問2〕

(1) 解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対し3点。

#### 〔設問3〕

(2) 正答に対し各1点。ただし三つの正答に加えて誤答も記載がある場合は減点あり。

その他は解答例どおり。

### 【講評】

手話 AI エージェントを題材にした組込みシステム開発に関する出題でした。解説にもある通り、AI エージェントとは、知的に振る舞い、自律的に環境と対話・行動するシステムやプログラム」を意味し、近年様々なビジネスシーンでの活用が進んでいます。国内外のスタートアップがこぞって様々な領域での開発を進めており、問2のテーマであった ESG 経営においても AI による分析が進みつつあります。組込みシステムにおける AI 導入は今後ますます盛んになると考えられ、興味をもって注視しておくべき領域であるといえます。

〔設問 1〕(1),(2)ともに高い正答率でした。

〔設問 2〕(1) 高い正答率でした。

〔設問 3〕(2) 「人検出」と「表示&LAN 通信」は正答率が高かったものの「カメラ映像」まで含めて完答できた答案は少なかった印象です。

## 問8 プログラムのテスト

### 【採点基準】

#### 〔設問5〕

解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対し4点。

その他は解答例どおり。

### 【講評】

プログラムのテストは午前問題で頻出のため、午後問題で登場した場合に応用できるよう基本的な理解を固めておく必要があります。

〔設問 1〕〔設問 2〕はいずれも正答率は高めでした。

〔設問 3〕のデシジョンテーブルを完成させる問題では、「実行する動作に X, 実行しない動作に―」を記入する指示があります。この指示に従っていない解答は内容が正しくとも不正解としました。

〔設問 5〕テストの設計や実施の不備に起因して、純粋バグを検出しきれていない可能性を考えられるかが解答のカギとなりました。

## 問9 プロジェクトの進捗管理

### 【採点基準】

#### 〔設問2〕

(2) 解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対し3点。

#### 〔設問3〕

(1) 解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対し3点。

#### 〔設問4〕

(1) 解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対し3点。

(2) 解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対し2点。

その他は解答例どおり。

### 【講評】

プロジェクトの進捗管理に当たり、学習塾の総合支援を行う SI 企業を題材とした出題でした。

万全の準備を行っていたとしても、プロジェクトにはその進捗を阻害する想定外の要因がいたるところに潜んでいます。進捗の管理、遅延原因の分析、リカバリ策の検討実施など、状況をどのように打開するか、についての実践的な内容であったといえます。

〔設問 2〕(2)は正答率が低かったです。生成 AI の活用によるメリットとデメリットに関する問題文中の記述と、ベテラン社員の意向を汲み取って解答する必要がありました。問題文から読み取ることが難しかったといえます。

〔設問 3〕(1)においては単にスケジュールの遅れについての解答は部分点に留めました。SV の負の値（あるいは EV－PV の値）についての記述があるものを正答としました。(2)の「コンティンジェンシー予備」は正答率が低かったため、語句の意味をよく復習しておきましょう。

〔設問 4〕(1)、(2)は、いずれも高い正答率でした。

## 問 10 IT システムの変更管理

### 【採点基準】

#### 〔設問 1〕

(2) 解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対し 4 点。

#### 〔設問 2〕

(1) 解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対し 4 点。

(3) 解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対し各 2 点。ただし「メモリ」などの部分的な解答はマイナス 1 点。

その他は解答例どおり。

### 【講評】

中堅食品メーカーの統合業務システムのアップデートと IT インフラ基盤の移行を背景に、IT システムの変更管理についての理解を問う出題でした。

〔設問 1〕(2) 高い正答率でした。PC のスペックやレスポンス、メモリやストレージの制約などに触れられていれば広く正解とするか、部分点を与えています。

〔設問 2〕(1) 高い正答率でした。一般的にはサービスの選定基準としてコストや品質、機能などが考えられますが、本問において選定基準に係る記述を本文から探すと、事業者の規模や信頼性に関する記述が見つかります。先入観にとらわれず、問題文の内容から解答根拠を探し出したいところです。最大手としての信頼性や実績についての記述があれば広く正解、あるいは部分点を与えています。

## 問 11 電子帳簿保存に関わるシステム監査

### 【採点基準】

#### 〔設問 2〕

(1) 解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対し 3 点。

(4) 解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対し 3 点。

その他は解答例どおり。

### 【講評】

電子帳簿保存法（電帳法）への対応をテーマとしたシステム監査に関する出題でした。電帳法では電子取引された帳簿や書類を電子データとして保存することが義務付けられており、企業では電子化の対象となる書面を明確にした上で、業務プロセスやシステムを見直す必要があります。ほとんどの問題は、問題文中の適切な語句

を探して解答する必要があり、部分点を与えにくい内容であったことから正答率が低く、他の大問に比べても難易度は高かったといえます。

〔設問 1〕(1),(2)の正答率は低く、(3)は正答率が高めでした。

〔設問 2〕(1),(2)は正答率が高かった反面、(3),(4),(5)の正答率は低かったです。(4)については担当者個人の不正やミスに関する解答には広く部分点を与えています。

以上